

行政視察等報告書

令和6年3月7日

長野市議会議長 西 沢 利 一 様

報告者氏名（代表）
子育て支援調査研究特別委員会
委員長 寺 沢 さ ゆ り

この度、行政視察をしましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

- 1 視 察 区 分 子育て支援調査研究特別委員会行政視察
- 2 視察者氏名 寺沢 さゆり 桜井 篤 堀内 伸悟 原 ようこ 山崎 裕子
浅川 徹 佐藤 高志 市川 和彦 西脇 かおる
- 3 随 行 者 書記 吉澤 耕介
- 4 視 察 期 間 令和5年12月11日（月）
- 5 視察先及び視察事項

視 察 先	視 察 日 時	視 察 事 項
ユースセンター オレンジファム	12月11日（月） 午後1時40分～ 午後3時	子どもの第三の居場所づくりについて

6 調査概要

月 日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
12/11	ユースセンター オレンジファミ	<p>【子どもの第三の居場所づくりについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○設置者 (一社)オレンジファミ ○設 立 令和5年5月 ○開設時間 毎週 月・水・金 9:00～15:00(夜まで居てもいい) ○対象者 小学生～10代の若者 ○定 員 20名 ○在籍者数(登録者数) 27人 ○スタッフ 常勤2名、非常勤1名 ○費 用 会員 11,000円/月 単発 1,100円/日 送迎 300円 <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがまんなかの居場所 ・子どもへの温かいまなざしがある居場所 ・大人にじゃまされず、やりたいことができる居場所 ・ありのままの自分でいられる居場所 ・自分で選択する自由がある居場所 ・施設の方針は、学校でも家でもない10代の子どもたちのための第三の居場所「ユースセンター」 <p>建物は、事業所跡を格安で賃借しており、平日の昼間はフリースクールとして運営を行い、夕方から夜間は学習塾として運営している。通学は親の送迎が多いが電車に通っている子もいる。昼食は、お弁当を持ってきたり近くのコンビニへ買いに行ったりしているが、子ども食堂の日には、厨房でカレーを作ったりしてみんなで食べる。月1回はキャンプや自然体験を行っており、塾の子もフリースクールの子も一緒にほぼ全員が参加している。</p> <p>フリースクールの費用1か月 11,000円は他と比べて格安だが、建物を格安に借りられていることや塾の運営が順調であるため、財政状況に変化があった場合、利用料金を引き上げる必要も出てくる。</p> <p>資金の助成は認定NPO法人カタリバから受けており、2週間に1回程度ミーティングを行って事例の共有を図って横の連携を取っており、リスク管理も勉強している。</p> <p>居場所とはD o (何かをやる) かB e (自分らしく生きる) だが、何かをきなさいとか、しましよは言わない。自分らしく生きて自分らしく学んで大人になれるよう、勉強だけではなく音楽と体育(運動、遊び)も大切にしている。</p> <p>学校が好きな子もいれば嫌いな子もいる。学校が合わない子は違う道を選択する。学校に行かない理由が分からない子もいるが、学校へ行けない自分は駄目だと思ってしまう、そんな子にどう寄り添っているかを大切にしている。</p> <p>【考察】</p> <p>一番に感じた印象は、明るい居場所だということ。地域の方々や学校と上手に連携して運営されているところが素晴らしいと感じた。在籍している子どもたちは、とても明るく、自由に伸び伸びと過ごしていて、とても楽しそうだった。</p> <p>実際の体験や経験を大切にしており、年齢や立場など垣根を作らないというコンセプトによって取り組んでおり、子どもたちの学びや成長への関わりについて深く共感した。</p> <p>いろいろな人と出会い、関わり様々な体験、特に自然体験により生</p>

		<p>きる力を養うということや、体育と音楽がとても重要だとする中島代表の考えに大変共感した。</p> <p>長野市のS a S a LANDをはじめとする教育支援センターも、こんな雰囲気の施設になってくれば、子どもたちの楽しい居場所になるだろうと感じた。</p> <p>「育ちと学びの場」、「親と子の学ぶ環境」として、より良い場所の設定をどうするべきかと感じた。</p> <p>中山間地の教育環境問題もあるが、将来的に一步進めて「全寮制のフリースクール」も可能か提案してみたい。</p> <p>地域との連携も必須と考える。能動的にイベントを共同で行うことができれば最善だが、少なくとも近隣住民の方にはフリースクールの存在に理解を持って頂くこと、そのための周知などが必要と感じた。</p> <p>「食育が大事」との観点から、大きな調理室でみんなで調理をしたり、在籍している仲間との親睦を深めるための卓球台があったり、「カウンセリングルーム」も設けてあり、落ち着いた環境の中で、様々な相談が出来る体制も整えられていて感銘を受けた。</p> <p>昼の部屋が一つ用意されていたが、子どもが体や心を休ませることができる部屋を確保しておくことが重要だと感じた。このような部屋が多いほど、一人静かに過ごしたい子どもなど、多様な受け入れをすることができると思う。保護者に対する相談室としても使えると思う。</p> <p>通っている子どもたちの今後の進路や社会への関わり方について、本人や保護者に寄り添ってサポートしていく必要を感じる。現在、子どもたちが心身共に健やかに毎日を過ごすことが大事だが、保護者は将来の見通しについても不安に思っているのではないか。</p> <p>子どもが公共交通機関や徒歩でもアクセスできるような立地の選定が必要だと思う。電車やバスなどを利用して来られるか、歩道や横断歩道があるか、冬季の除雪体制は大丈夫か、駐車場はあるか等々、保護者が送迎できればベストだが、そうでない子も気軽に来られるようなアクセスの整備が必要と考える。</p> <p>年齢が低い子どもであればあるほど、読み書きや四則演算といった基礎的な学習を保障することが重要になる。強制してはいけませんが、そのための人員やツールの確保が必要ではないか。</p> <p>子ども食堂スタッフや心理士、プロサッカー選手など、様々な大人が集まることで、子どもたちがロールモデルを見つける手伝いをするという中島代表のお話からは、悩みを抱えたり、時には誰かに話を聞いてほしいと感じている子どもたちにとって、とても重要な場所であることがうかがえた。</p>
--	--	--